

大分立判田小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	心豊かでたくましく自ら学び考える判田っ子の育成
育成を目指す 資質・能力	書く力・話す力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 5・6年生の学力調査の結果、全教科において目標値を上回っている。 細かくみると、「情報の扱い方に関する事項」が弱く、必要な情報の抜き出し、自分の言いたいことが伝わるような表現の工夫、資料の活用、図などによる関係の表し方に課題が見られる。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 小中学校区で共通に取り組んでいる発表名人（「はい」と返事をし、みんなに聞こえる大きな声で、ゆっくりと分かりやすく、文で、最後まではっきりと話す）に気を付けて発表しているというアンケート項目に対して否定的に答えた割合は22%で、他の項目に比べると高かった。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・自信をもって自分の思いや考えを伝えることができるように考える時間を確保するとともに、ペア・グループ活動の目的・場面・方法を明確にしたことで、考えは伝えられるようになってきている。今後、話し合いの質をより一層高め、全体交流へとつなげていきたいと考える。 ・他者の思いや考えと自分との違いや共通点を明らかにできるよう、ICT機器等の活用と板書の構造化を図ったことで、思考の視覚化ができるようになってきている。 ・「振り返り」の活動を充実させてきたことで、自らの成長を実感したり、新たな目標や課題を発見したり、成就感につながっている。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・校内研修(算数科)を主とした互見授業や日常実践の交流を実施し、授業改善を常時図りながら、児童の表現力を高めることができた。 ・「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の流れを確立し、板書の構造化を図ってきた。 ・児童の思考の流れを大切に、主体的・対話的で深い学びの実践を目指した。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・昼の学習タイム(チャレンジタイム)を活用して、基礎・基本の定着を進めてきた。 ・小中一貫教育として、学習規律の徹底を図り、年間3回の合同研修で確認し合い取組を進めた。 ・学習に向かう力を支える学級経営を営み、安心できる居場所の大切さを再認識した。 ・地域や保護者と連携して、自力登校・基本的な生活習慣・家庭学習の徹底を図った。	

学力に関する達成指標

単元末テストにおいて、全学年の平均点を85点以上にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 授業改善による確かな学力の定着・向上 小中一貫教育の推進	
	〈取組内容〉 ①教科担任制の導入、一人1台端末の活用、個に応じた指導・支援 ②言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の積み重ね ③こどもが学びを実感する「まとめ・振り返り」を確実に位置付けた授業の実施 ④小中合同研修会を年間3回実施	〈家庭・地域の取組内容〉 ・判田「学習規律」の徹底 ・「判田っ子家庭学習の手引き」の活用 ・小中合同の学力向上会議や学校運営協議会を通じ、小中学校に共通する課題の把握や対応策の検討を行う。
	〈取組指標〉 ①低学力層(60点未満)の児童の割合を5%以下にする。 ②「授業で学んだことが分かった」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ③「『発表名人』に気を付けて発表している」と肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。 ④「小中連携を意識し授業や行事に取り組んでいる」と肯定的に回答する教員の割合を80%以上にする。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・学校から発行する「学校のきまり」や「判田っ子家庭学習の手引き」を家庭内に掲示するなどして、年間を通して意識する。
	〈検証指標〉 ①教科担任制の導入、一人1台端末の活用、個に応じた支援等 ②こどもが追究したくなるめあてや課題と話し合い活動を効果的に設定した授業の実施 ③ペア・グループ・全体での発表などを効果的に取り入れた授業の実施 ④小中合同研修会を年間3回実施することにより、小中連携を意識させる	
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ①学習規律の徹底 ②継続的な学習活動の工夫(チャレンジタイム・図書館の活用等) ③ICT機器の効果的な活用(自分の苦手な学習に取り組ませる) ④学習評価の研究・効果的な実施方法の模索 ⑤地域や保護者との連携(自力登校、生活習慣、家庭学習等) ⑥休み時間や放課後等を使つての補充学習(前単元の振り返り学習にも取り組ませる) ⑦チャレンジ学習(週末課題)(苦手な問題に取り組ませる)	